

課題改善シート

教科名	中学校 数学	平成26年度問題	A13	(1)
学習指導要領の領域・内容	1年 D 資料の活用			
調査問題				
著作権の都合により掲載できません。				
国立教育政策研究所 平成26年度 全国学力・学習状況調査の調査問題 中数A-13 https://www.nier.go.jp/14chousa/pdf/14mondai_chuu_suugaku_a.pdf 参照				
解答類型		全国平均	県平均	自校等
◎ 1	0.3と解答している。	42.7%	37.3%	%
2	18と解答している。	20.7%	24.8%	%
3	10と解答している。	0.5%	0.4%	%
4	35と解答している。	1.6%	1.3%	%
5	10/3と解答している。	0.4%	0.5%	%
	上記以外の解答	17.4%	17.4%	%
	無解答	16.7%	18.3%	%
課題改善の主なポイント				
<p>相対度数の必要性と意味について理解を深めるための指導が必要である。</p> <p>誤答については「18」と解答した生徒が約25%であり、30分以上40分未満の階級の度数をそのまま解答している。また「上記以外の解答」の誤答例では、10/3のように、相対度数を求める際に除数と被除数を反対にして求めた後に四捨五入したとみられる「3.3」がある。</p> <p>このため、ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、資料の傾向を読み取ったり、与えられたヒストグラムから相対度数を求めたりする指導を行っていく必要がある。</p>				
備考				
<p>○ 平成25年度のA14(2)調査問題でも相対度数の理解に課題が見られる。</p> <p>6月の日ごとの最高気温の分布を表したヒストグラムから、ある階級の相対度数を求める。(全国平均22.8%, 県平均17.8%)</p>				